

ステーションからの



「訪問看護師の喜び」

訪問看護ステーションこだま 管理者 新田 栄子

H10年、まだ介護保険もなく自宅での介護は嫁や妻、家族が看るとい考えがほとんどでしたので、訪問看護師って何をしてくれるの？と受け入れはスムーズなものではありませんでした。そのような中オシッコの管はつけたままお風呂に入れるんですよ、お手伝いしましょう。また、こうやって体を動かすと寝ておられる方も楽だし、介護される方も腰が痛くならず楽に動かすことができるんですよ、と今まで家族がやってこられた事を認めた上で少しずつ看護師の専門知識をアドバイスしていききました。訪問回数を重ねるともっと早くにきてもらったら楽だったのにねという言葉もきかれるようになり、利用者・家族の生活が安楽になった事、そして、訪問看護師の役割を理解していただいたことを嬉しく思いました。

訪問看護師の仕事は、一度で順調に受け入れられるものではありません。前回こうやってダメだったから次はこのようにしてみようと創意・工夫を行っています。何回も失敗を重ねた上にやっとなんていっていただくようになった時は、利用者・家族と共にスタッフ一同喜んでいきます。長年訪問していると、利用者・家族から《あの看護師さんプロだね》といわれることがあります。(本当は全てのスタッフがプロと言われたいといけないのですが)それは、体の移動、マッサージ、洗腸、吸引、点滴、絆創膏の貼り方等々さまざまですが、同じように行っているようでもわずかな違いでとても楽に感じ、気持ちよく、無駄のない手技方法なんだと思います。また、看護師さんが顔を見せてくれるだけで元気が出る、頑張ろうという気持ちになれる、また来てねという言葉は訪問看護師にとって最大限認められた言葉で大変嬉しいことです。

全スタッフがさすがプロだね、顔を見るだけで元気になる、看護師さんが来てくれるから家におれるんだという言葉をお励みとして、これからもQOLを大切にしながら頑張っていきたいと思っています。

リーダーだよ

「より良質のサービス提供をめざして…」

和香会訪問看護ステーション 管理者 馬場 民江

和香会訪問看護ステーションは倉敷市水島地区にあり、H24年に中庄に新築移転した倉敷スイートホスピタルを母体を持つ事業所です。水島地区の在宅を中心にグループホームや連携している有料老人ホーム、スイートホスピタル内にあるサ高住などに訪問し、看護師、リハビリ職総勢27名で多様なニーズに答えています。最近では施設においても高度な医療を必要とする方が増えているため、様々な医療ニーズに対応できるように積極的に研修にも参加し、スキルアップを目指しています。「お客様の満足度の向上を」を理念に、安心して望まれる暮らしが出来るように職員一同協力して今年も頑張っていきたいと思っています。



『在宅看取りにおける死後の処置』に参加して

津山中央訪問看護ステーション 大橋 慶子

今回、エンゼルケアについての研修は初めてだった。死後の変化やエンゼルケアの実際、きちんとケアができないとどうなるのかなど初めて知る内容ばかりで、とても学びの多い研修になった。研修の中で印象に残ったことは「エンゼルケアは『化粧をする』という意味ではなく『身支度を整える』ということだった。

1週間後にエンゼルケアをする機会があった。黄疸のある男性の利用者、化粧をした感じを出さないようにと思いながらケアを行ったが、なかなか上手くいかず、難しかった。それでも、生前本人がどんな人だったか、自分なりに思いを馳せながらケアを行った。そして、故人の思いに沿った身支度ができるように学んだことを活かしていきたいと思った。

医療機関等の看護師研修に参加して

岡山労災病院地域連携室看護師長 浦上千代子

平成27年4月から地域連携室に配属となり、退院調整看護師としてどう進めていくか試行錯誤のところ、この研修に参加させて戴きました。退院支援をする上で、退院調整看護師の役割とMSWの役割について事例をもとに丁寧に説明があり、病院から退院された患者の訪問看護を体験し、今後の退院調整の参考となりました。今回、実習をさせて戴いた訪問看護ステーションの皆様には感謝しています。グループワークでは、訪問看護師、病院の看護師、ケアマネジャーでメンバーとなり話し合いをしたことで、患者を取り巻くそれぞれの立場から意見交換でき、連携していくことの大切さを実感しました。また、顔の見える関係づくりの大切さも実感しました。最後にこの研修に参加することで、退院調整が推進できる方向性が見える機会となりました。

「がんの疼痛コントロール」研修会に参加して

さとう記念病院訪問看護ステーション 管理者 田中 啓子

平成27年10月4日の「がんの疼痛コントロール」研修会に参加しました。午前中は、薬剤師、水田智巳氏から緩和医療に使用する薬剤の作用機序、適応、使用方法、副作用に加え、痛みのアセスメントやがん治療における鎮痛薬使用の基本原則など薬剤使用時の看護師が行うべきことの講義を受けました。午後からは、緩和ケア認定看護師、竹内奈々恵氏から「がん疼痛マネジメント」として「痛みのアセスメント」を全人的な視点から詳しく実用的な説明がありました。後半は某ステーションから提供された事例のアセスメントをグループワークし参加者間での意見交換もできました。今回の研修は、がん在宅療養の方の安楽・快適な生活支援に繋がる充実した内容で、アセスメントの重要性を再確認しました。専門性の高い認定看護師や薬剤師など

多職種と訪問看護の連携で在宅の緩和ケアの質を高められることを実感しました。



岡山市プチ体験研修に参加して

伊達 登美子

ミニコミ紙の「訪問看護のプチ研修」の文字にふと目がとまりました。「プチ」に心が惹かれたのか、気が付くと申込みの手続きをしていました。いい年をして、不安な気持ちを抱きつつ参加しました。でも、初日の研修で好奇心に火が付き、早くも体験研修への興味が沸いてきました。又、帰り際には、グループのメンバーと話し込み。皆さんの意識の高さを感じました。ステーションでの訪問看護研修は、笑顔の素敵な看護師さんが私の担当でした。訪問した殆どの患者さんは寝たきりの状態で、注入と排泄管理が主体の処置でした。的確な観察、手早い処置中も絶やされることのない笑顔。それぞれの患者さんのニーズに応じた看護技術が提供されていることを感じる事ができました。まとめの研修ではすっかり顔なじみとなったグループメンバーと再会して、研修報告をしました。そこで感じた事は参加者の意識の高さです。プチ研修の文字につられての参加が恥ずかしくなりました。更に、岡山大学病院でのフィジカルアセスメントや気管切開の管理等、実技研修を受けたことで技術的な不安や疑問を少し払拭する事ができました。もう少し勉強してみたいとさえ思うようになりました。とても楽しく有意義な4日間でした。この研修に係って戴いたすべての方々に感謝申し上げます。

訪問看護サミット2015

こうなん訪問看護ステーション 管理者 三村 希代子

今年度も11月8日「訪問看護サミット2015～地域包括ケアシステムにおける訪問看護の今とこれから」が開催されました。地域包括ケアシステムの構築が進められる中での課題や訪問看護師としての役割など様々な意見が出されました。

まず向井千秋氏が宇宙での様々な興味深い体験談を交えながら、宇宙空間と老化の関係性について話され、その後新田國夫氏は地域包括ケアにおける在宅医療と看護について、渡辺由美子氏は医療介護の現状と訪問看護への期待について話されました。

シンポジウムでは、島田珠美氏が看護師の質の向上の重要性を話され、野島あけみ氏は機能強化型訪問看護ステーションの活動報告、能勢佳子氏は保健師の立場から超高齢地域での「暮らしの保健室」の活動報告をされました。

そして閉会挨拶では佐藤美穂子氏が「訪問看護は

新しいステージにきており、予防や在宅移行支援が重要な役割で看護師の団結が必要」と締め括られました。



「中四国ブロック会に出席して」

そよかぜ訪問看護ステーション 管理者 下村 明世

平成27年10月31日山口県で行われた中四国ブロック会に参加させていただきました。

特別講演『老いても病んでも美しく、家族の愛を壊さないために。一北欧で、そして、1人暮らしの母を看取って見つけたこと』と題して医療福祉ジャーナリスト 大熊由紀子氏の講演を聴かせていただきました。

講演の中で、「ケアワーカーの条件 ①認知症の年寄りに尊敬の念がもて忍耐強い ②同じことを何度言われても興味深く耳を傾け、気持ちを正確につかむ ③小さな変化も見逃さない繊細さをもつ ④奇妙な行動にも驚いたりせず、怒りを受け止められる度量がある ⑤機転のきいた受け答えが得意 ⑥ユーモアがある」というお話がありました。

今後、訪問という仕事の中で、その方がどんな病気であろうともどんな障害であろうともその方が望むならふつうの家でふつうの暮らしができる支援をしていこうと思いました。



倉敷市委託「訪問看護師確保対策事業」にて看護学生25名が訪問看護ステーションの職場体験をしました。



- 病院とは違う自宅で療養される患者さんが主体の個々に合わせた看護、在宅ならではの看護技術など学ぶことができました。短時間の中で会話などから患者さんの変化に気づくこと、患者さんだけでなく家族の方も看護の対象として関わっていくことでより良い看護が提供できると思いました。今回の体験を通じて今まで以上に訪問看護へ魅力を感じました。知識、技術を身につけ必ず訪問看護師になりたいです。
- 自分の目指した看護がありそうだと感じましたが、卒業後、すぐの就職は難しいと聞き、少し残念だと感じました。3年後、自分がどのような看護をしていきたいか見つめ考えさせられる良い経験になりました。この体験で感じた事を忘れずに、これからの学習を頑張っていきたいと思いました。他の専門職との連携がとても重要だと思いました。一人の為に様々な機関や人々が携わっていることが知れてすごいと思って感動しました。
- 体験学習をさせていただきありがとうございました。病院の看護師とは又違った看護師の仕事を知ることが出来ました。場所が患者さんの家に代わるだけでこんなにも雰囲気や空気が違うのかと、とても新鮮に感じました。その患者さんの家族の方とも密接に関わっておられそのことから患者自身により近づけていたように思いました。車で移動や年齢も症状も幅広い患者さんへの看護から大変だとも思いましたが、このような道もいいなとも思いました。将来進む道の選択肢の一つになりました。

20周年記念事業のお知らせ

20周年記念事業特別委員会 委員長 重平 典子

当協議会は、平成8年5月23日に岡山県訪問看護ステーション連絡協議会として発足し、平成28年に20周年を迎えます。20周年を祝して記念事業を企画しておりますので、進捗状況をお知らせします。

日時：平成28年6月25日(土)

会場：ピュアリティまきび

通常総会の後、記念式典・記念講演会を行います。記念式典では、訪問看護ステーションに永年従事された訪問看護師及び管理者の方27名、特に推奨に値する功労者10名に表彰を行う予定です。また、記念講演会には、鳥取市内でホスピスケアのある有床診療所「野の花診療所」の徳永進先生をお招きし、「訪問看護師へのエール(仮)」と題して講演をしていただきます。明日からの活力になることと期待しています。

記念式典・記念講演には多くの方のご参加をお待ちしています。

その他にも記念誌の発行、PR動画作成なども企画しておりますので、皆さんと一緒に20周年をお祝いしたいと思います。

訪問看護ラダー別教育プログラムを活用しませんか

課題検討委員会 菅崎 仁美

課題検討委員会では、人材育成を目的として訪問看護の専門的知識や技術を段階的に身につけられるように訪問看護ラダー別教育プログラム作成を計画しました。各ラダーの到達目標をめざして学習を深めることで個々の課題が明確になり効率的に学習することができます。また、スタッフと管理者がお互いに能力段階を確認しながら自己研鑽や人材育成をめざすこともできます。

すでに昨年、新任期(レベル1)を作成しています。今年度は、初級・中級・上級ラダーに取り組んでいるところです。今後は研修も各段階のラダーに応じたものとなる予定です。ぜひ訪問看護ラダー別教育プログラムを活用して質の高い訪問看護師の育成をめざしていきましょう。

編集後記

今年のお正月は穏やかで過ごしやすかったですね。その中でも、利用者様のために訪問に明け暮れた看護師さんも多かったのではないのでしょうか。本当にお疲れ様です。

昨年を表す漢字は「安」でした。訪問看護は利用者様の安全、安楽な生活を支える大切なお仕事です。また、今年度は岡山県訪問看護ステーション連絡協議会20周年記念事業が行われます。今まで、訪問看護を支え続けてくださった方、新しくお仲間になられた方など、皆様と一緒に元気で楽しく頑張っていきましょう。

広報委員一同